

特別
陳列

十二支の考古学



嵐山モンキーパーク岩田山のニホンザル

特別陳列

「十二支の考古学 - 申 -」

平成 28 年は十干十二支の呼称によると丙申の年です。この「申」には動物の猿があらわれており、この展覧会では猿にちなんだ資料を紹介します。

猿を人が表現するようになったのはいつ頃から始まったのでしょうか。猿の姿を表現した資料には青森県十面沢遺跡から出土した縄文時代後期の猿形土製品があります。猿を描いた資料では弥生時代中期の神戸市榎ヶ丘町出土の第 1 号銅鐸の絵画が知られています。古墳時代には猿の埴輪が、奈良時代には猿の顔を描いた墨画土器が認められます。こうした資料から猿が人間にとって身近な動物として存在したことは十分想像できます。その一方で文字としての「申」・「猿」は、古墳時代の銅鐸の銘文や木簡に記された文字によって確認できます。

こうした人と猿との関わりについて、動物の猿にまつわる造形物、「申」・「猿」の文字が記された資料を通してご紹介します。

休館日

月曜日および年末年始（12月28日～1月4日）
1月12日（火）※1月11日（月）は開館

開館時間

9時～17時（入館は16時30分まで）

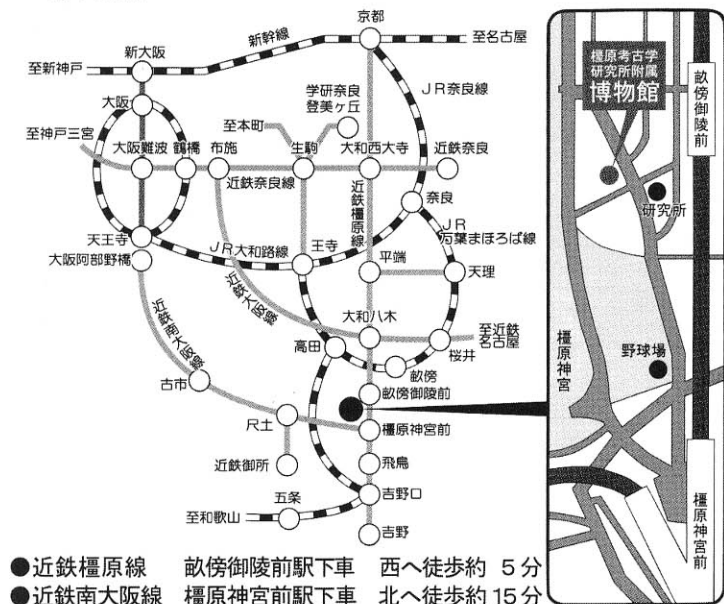
入館料

大人 400円（350円）
高校・大学生 300円（250円）
小・中学生 200円（150円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

ただし下記に該当の方は無料。

- 小学生未満の幼児、65歳以上の方、外国人観光客および付き添いのボランティアガイド、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい保健福祉手帳をお持ちの方、およびその付き添いの方1名。（それぞれ証明するものを提示下さい。）
- 土曜日に来館する県内の小学・中学・高校・特別支援学校生。
- 県内の小学・中学・高校・特別支援学校生が通学校の教員の引率で入館の場合。



- 近鉄橿原線 畝傍御陵前駅下車 西へ徒歩約5分
- 近鉄南大阪線 橿原神宮前駅下車 北へ徒歩約15分

講演会

日時：2016年1月9日（土）（聴講無料）

12時開場、13時開始～16時終了（予定）

会場：奈良県立橿原考古学研究所 講堂

北井利幸（当博物館 主任学芸員）「考古資料にみる猿・申」

今西康宏（高槻市立今城塚古代歴史館 学芸員）

「今城塚古墳に猿の埴輪はあったのか」

見どころ解説（聴講無料・要入館料）

2016年1月9日（土）10時30分～11時30分

工作教室

※要申し込み。氏名・電話番号・参加したい教室名・日時を記載の上、往復葉書又はFAXでお申し込み下さい。

①は12月18日（金）、②は12月23日（水）が締切（必着）です。

①型紙絵をつくろう（参加無料・材料費300円）

日時：2015年12月20日（日）

第1回 10時～12時 第2回 13時～15時

会場：当館講座室 定員：各回15名

講師：石田繁夫（型紙絵作家）

②アクリルたわしをつくろう（参加無料・材料費300円）

日時：2015年12月26日（土）

第1回 9時～12時 第2回 14時～17時

会場：当館講座室 定員：各回30名

講師：上田厚子（森と水の源流館）

協力：森と水の源流館

主な展示品

猿の骨／橿原遺跡（当博物館）

猿の埴輪／小墓古墳（天理市教育委員会）

申像（拓本）／韓国史跡慶州金庚信墓（当研究所）

猿を描いた墨画土器（レプリカ）／平城京左京三条二坊（長屋王邸）

奈良県立桜井高等学校書芸コース2年生による書作品



猿の埴輪／小墓古墳（天理市教育委員会提供）

次回予告

2015年度特別陳列

長福寺の古瓦（仮題）